

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>『みんな家族～地域とふれあい楽しい暮らし～』住み慣れた地域で楽しい暮らしを送れ、地域と共に寄り添い、みんな家族の様にとの想いを込めた理念を掲げ取り組んでいる。</p>	○	<p>地域と触れ合う機会を増やし、地域で楽しめる行事等も取り入れていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を全職員に理解していただく為に、内容をプリントして配布し、日々の、サービス提供場面に反映させている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念をホールへ掲示し、毎月発行している『はるなの里通信』への記載も行っている。地域の人々に理解の取り組みは行っていない。</p>	○	<p>地域へは納涼祭時に掲示したが、今後回覧等にてより理解浸透を図りたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>回覧板は回しあい、近隣の人たちと挨拶を交わしたりしている。町内会や民生員、老人クラブや商店(肉屋さんなど)の地域資源に関わりながら、交流を図っている。弘前花火大会が施設から見える事もあり、はるなの里納涼祭を兼ね、場所の提供や納涼祭に参加を呼びかけ行っている。また、学区の運動会、保育所のバザー等に参加し交流の機会を増やしている。</p>	○	<p>認知症の予防普及活動に参加はしていないが、今後情報を得て参加していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に評価のねらいをプリントして配布し、周知している。全職員がサービスの質の向上に努めている。自己評価は全職員が一緒に取り組んでいる。	○	外部評価をもとに改善策の検討や改善計画を策定するなどより良いケアサービスの提供につなげる為の取り組みを行っていく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、意義を理解しており、積極的に、取り組みを行っている。町内会長から納涼祭のアドバイスもあり、さっそく、6月16日に地域を巻き込んで納涼祭を行って、地域との交流と、利用者のQOLの向上を図った。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へホームのパンフレットなど配布していない。自己評価、外部評価の提出も行っていない。必要に応じて利用者の利便性の向上、生活の質の向上を高める為の課題可決に向けて行政との連携は図っている。	○	今後、パンフレットの配布と自己評価、外部評価の結果の提出を行い、利用者の利便性の向上など、生活の質を高めるための課題解決に向けて、行政との連携を図っていく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員に権利擁護事業や成年後見制度について理解できるようプリントして配布し、周知している。全職員がサービスの質の向上に努めている。必要に応じて、事業利用の情報提供を行う用意がある。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止法に関する理解は出来手おり、管理者は職員の日々のケア提供場面を観察し、虐待を未然に防止できている。虐待を発見した場合の対応方法として、市町村及び都道府県の担当部に通報するなど適切な対応を行う事を全職員が理解している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解納得を図っている。退居の際は、退居先へ情報提供を行い、支援している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は、必ず声をかけ、なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。それらを運営に反映させている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについて、毎月1回ははるな里通信を出して報告すると共に、金銭管理状況についても出納簿に記録し、領収書を添付し報告している。利用者へのサービス体制の変化時、職員異動なども報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の苦情受付窓口を明示している。事業所外でも運営推進会議、市町村の相談窓口や相談者など、意見、苦情を表せる機会や場があることを伝えている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら支援していく体制が整えられている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応できるように、勤務の調整を行っている（職員は現在7人でローテーションを組んでいる）	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務異動や離職する際は、利用者にきちんと説明しており、今のところその事で、利用者のダメージはなく経過している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修などに順番に参加したり、毎月1回事業所で講師を招き、法人内研修が行われ、夜勤者以外全員参加している。研修受講後、報告会や伝達研修を行っている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体施設がネットワークに加入し、同業者との交流連携の機会が確保されているおり、日々のサービスの向上に取り組んでいる。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安旅行、、ボーリング大会など開催しており、ストレスの軽減につながる取り組みが行われている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻回に現場に来ており、利用者とは話ししたり個別職員の業務や悩みを把握している。健康診断は、年2回行われ、他、腰痛検査は年1回行われ、心身の健康を保つための体制を整えている。就業規則があり、守られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があったときは、利用希望者や家族と面談するなど直接話を聞いている。利用を前提とせず、まずは、利用者の身体状況や思い、希望、ニーズを把握するように努めている。利用者や家族の思いを受け止め、安心してもらうことにより、関係づくりを図っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者や家族のニーズに対して面談し、その時点で何が必要か、見極めている。他のサービス利用も含め対応している。地域包括支援センターとの連携は出来ていない。	○ 7月の運営推進会議には包括支援センターの方にも出席をしていただくよう働きかけ、必要時は支援の移行も考慮していく。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に事業所を見学してもらったりし、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう、話し合いを行い、調整している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の不安、苦しみ、喜びなど知ることにより、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意している。利用者の得意分野として裁縫、掃除などをしてもらい、職員と共同しながら生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、情報交換を蜜に行い家族の思いを把握している。日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が途切れないよう、日々の利用者の様子を面会時や電話で伝えたり、はるなの里通信で報告している。疎遠になっている場合は必要に応じ関係修復に向けた取り組みを行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が関わってきた人や、馴染みの場所をだいたい把握しており、希望に応じて、実家の近くまでドライブを兼ねて行ってきている。	○	これ迄、関わってきた人との交流を継続できるよう取り組んでいく。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に支えあっていく事の大切さを理解し、孤立しないよう配慮している。仲の良し悪しなど、利用者の人間関係を知っており、良い人間関係づくりにつなげる働きかけを行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談に応じる旨を伝え、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。他施設へ移られた方に面会に行ったりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握するように努め、意思疎通が困難な方は全職員が行動や表情から汲み取り、把握している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーへ配慮しながら生活歴、馴染みの暮らし方など把握に努めている。	○ 今後も、本人のためのケアに活かすという目的を伝え、情報収集に取り組んでいきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の出来る力、分かる力を暮らしの中で発見できるように、把握につとめている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聞き、課題となる事を職員全員で話し合い介護計画に活かしている	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じて見直しを行っている。状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化は個々のケース記録に記載し、職員間で情報を共有している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした支援はしていない。	○	法人からの方針があった時は、取り組んでいく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア団体の存在は把握しているが、利用はしていない。 利用者の意向に応じて観光館を利用したりしている。 消防署には協力していただき、119番通報専用電話機を設置している。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月1回理容師が訪問し、希望があれば馴染みの美容院へ通わせ、毛染めパーマなど掛けれるよう支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護などの必要性のある利用者は現在居ない為、協働作業は行っていない。	○	運営推進会議に地域包括センターの職員にも参加していただき、長期的なケアを協働出きる様取り組んでいく。民生委員との協力体制の構築に努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他事業所へ移られた場合、プライバシーに配慮した上で情報交換を行い、別の場所に移り住むことによるダメージを最小限に食い止めるように努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関することを話さないことを徹底しており、介護の面でも羞恥心に配慮したり、利用者の言動を否定せず、尊厳を重視している。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の嗜好等を把握し、意思表示できない場合でも表情や態度から希望を把握するように努めている。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の言動を急がさず、ゆっくりした歩行を見守ったり、その日の身体、精神状態にも合わせた柔軟な支援を行っている。個別ドライブの場所など、自己決定を促したりしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ショッピングに連れ出し、利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれできるよう支援している。理容、美容は本人の望む店に連れて行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備として、野菜の皮向きなど、職員と一緒にやっている。食べこぼしなどのさりげないサポートして楽しく食事できるよう雰囲気づくりしている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物に好みがあるため、一人一人の状況に合わせて出している。現在、嗜好品の希望者は居ないので出してはいない		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを記録しており、パターンに応じ事前に誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めている。希望により、シャワー浴は随時行っている。入浴拒否する利用者への声かけ対応の工夫、利用者の習慣に配慮しながらも、つかりすぎや洗身等に対して、適切な支援している。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日疲れ具合に応じて柔軟に休息を取り入れている。睡眠パターンを把握して、昼夜逆転のないよう、必要に応じて家族や医療と相談しながら眠剤服用など調整を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として、その日の状態に合わせて、洗濯たたみ、畳拭き、テーブルふきなど行い、楽しみごととして、さくら祭り、運動会などに参加させている。個別ドライブとして、行きたい場所を聞いて連れ出したり、気晴らしの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を自分で行える人には、銀行の方に来ていただき金銭の出し入れを行うよう支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそって、ショッピングに出かけたり、センターとの交流の日は利用者の身体状況に合わせて、車椅子を使用して戸外に出かけられるよう支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他の利用者と共に黒石の伝承工芸館、浪岡のアップルヒル、関の道の駅などにでかけたり、個別にはさくらの昭和展、藤田庭記念園などに出かけており、外出支援をしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したいと要望があるときは自由にかけさせている。	○	今年は年賀状を出せるように支援していく。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、家族、知人等の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来ていただいている。家族、知人等などの訪問時には必ず声を掛けており、落ち着いて過ごせる場所を確保している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容について理解しており、身体拘束は行うことないケアに日々取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行った場合は、記録を残す体制となっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>今後、無断外出に備えて、近隣からの協力を得られるように、運営推進会議に働きかけ、協力体制を整えるよう取り組んでいく。</p>
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>災害時も、住民の協力を得られるよう運営推進会議に働きかけていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こりうるリスクについて把握しており、家族に話している。利用者の状況変化に応じ適宜の見直しを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の持病の有無を把握しており、常に顔色や様子に注意を払い、毎日バイタルチェックを行うことが、全職員に徹底している。変化や異常の兆候があった場合には記録に残すと共に、全職員で共有し、必要に応じて医療機関に受診している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を把握できるよう、処方箋のコピーを綴り、服薬ファイルの作成をしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個別にりんごを摂取する支援したりしている。身体を動かす働きかけとして、掃除、体操などを促している。食物繊維の多いメニューになっており、下剤服用者は少ない。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れの必要性を全職員が理解しており、毎食後口腔内の洗浄や、入れ歯の手入れを必要に応じて見守り、介助を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立となっており、1日の総カロリー、水分摂取量を概ね把握している。必要に応じて食事量を記録している。1人1人の習慣に応じた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防、早期発見、対応マニュアルが作成されており、定期的な学習の機会を設けている。（5月には保健所から講師を招き、ノロウイルスの感染症についての研修を全職員が受けている。） 家族、利用者にまだ周知していない。	○	利用者や家族に周知していない為、周知するよう に取り組んでいく。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理用具などの清潔保持として、殺菌灯月包丁差しや、食器乾燥機を使用している。冷蔵庫の整理はつど行い、食材も新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に家庭的な親しみやすい工夫として、下駄箱をスチール製から木製のものに取り替え安心感を得られるようにした。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は木製の整理ダンス、テーブルが設置されており、生活感があり、浴室は床暖となって冷たく感じることなく快適となっている。季節感を味わう食物として暦の行事に合わせ柏餅、水ようかん、おはぎ、お団子、赤飯、桜餅、など食べさせており、季節の山菜も食べていただいている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に利用者が一人で過ごせる場所は確保している。入居者同士でだんらんでできるスペースは確保されている。喫煙場所はあるが、利用している人はいない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室に、使い慣れた家具を持参している人もお り、茶碗、湯飲み、箸は、全員愛用していた物を 使用しており、家庭環境との差を感じさせないよ う工夫を行っている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	事業所内の換気を定期的に行っている。温、湿度 計を設置し適切な温、湿度管理を行っている。 利用者に合わせ、冷房を利かせ過ぎないよ う、温、湿度調節を行うように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、手すりが設置されてい る。又、転倒につながる原因がないかを観察し ている。身体状況の変化に応じて使用できるよ う車椅子は用意している。身体状況に応じて、環 境改善を行う体制が整えられている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者の状態に応じ、環境面に焦点を当て随時検 討している。事業所内の汚れなど、利用者の混乱 を招くような環境の要因に対して、速やかに改善 につなげるための工夫を行っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	中庭に、さつきを沢山植えており、それを眺め て、憩いになっている。玄関先にベンチは設置し ていない。(風あたりが強く不向きである為)		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 5月から個別に希望を取り入れたドライブを行っている。
(嶽広場、大鰐方面(大日様、鰐カム、サンフェスタ石川)、樋ノ口(ロックタウン)、藤田記念庭園、ねぶた村、岩木(色彩館)など)
- 6月16日 弘前市主催の花火大会と兼ねて納涼祭を開催し、地域住民の多数の参加を得られた。
テントを7張りして、模擬店も出し、皆に楽しんでもらった。
- 法人で全職員対象に5月～11月までは毎月1回講師を招き、研修会を設けている。場所は常に青森県武道館を使用している。
- 職員の親睦会があり、沖縄へ慰安旅行に行ったり、ボーリング大会が行われている。